

# 「わくわく未来創造館（仮称）」の整備について

## これまでの経緯・関連する取組と今後の予定

### R6年12月

- これまでの議論や、関係者等の声を踏まえ「ひまわりの里基本計画2024」を策定
  - 観光交流センター（仮称）の新築
  - 施設に必要な機能として「飲食」「物販」「快適な居場所」「一年を通じた体験」「民間や専門人材との交流・創造ラボ」

- ✓ ひまわりの里活性協議会で説明・合意
- ✓ 町議会への説明

### R7年3月～4月

- 国の新しい交付金（第2世代地方創生推進付金）事業に採択された
  - 国の評価ポイントは、ひまわりホールディングスの考え方や、関係人口と協働しながら、子どもも大人もチャレンジできる場や、しくみづくりなど

- ✓ 地方創生総合戦略の策定・明記
- ✓ 町議会への説明・議決

### R7年5月～8月

- 令和9～10年度の整備（工事）に向けて、「基本設計」に取りかかった
- 職員プロジェクトチームを立ち上げて、施設の機能などの検討を始めた
- 合わせて、町内の高校生や、関係者などの意見を聞く、機会を設けた
- 従来の観光センターの機能に留まらないため、一旦、施設の名称を「わくわく未来創造館（仮称）」とした

### R7年9月～R8年1月 ■ 収益モデル検討プロジェクト

- 「基本設計」が、1月に完了した
- 民間メーカーのアドバイスのもとで、「ノノの森」を活用した、収益事業を検討している
- 豊田通商社員と町民らが協働で、“冬のひまわりの里を活用した事業案”を企画提案した
- Creemaと連携したクラフトマーケット開催など、集客やラボ機能の可能性を検証している

- ✓ ひまわりの里活性協議会で設計を説明・了解

### R8年2月～R8年度

- |         |   |
|---------|---|
| 実施設計    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ わくわく未来創造館新築整備</li> <li>■ ノノの森など周辺土木整備</li> </ul>                                     |
| その他検討事項 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通年利用に向けた事業やビジネスプラン</li> <li>■ ラボ機能、関係人口入口機能の深掘り</li> <li>■ 運営主体・収益のしくみ など</li> </ul> |

- ✓ 町民説明会の開催
- ✓ 町議会への説明
- ✓ ひまわりの里活性化協議会で説明・検討

### R9～R10年度

建築工事  
土木工事

運営主体形成  
ラボ・収益  
事業試行

## 施設の概要・特徴など

- 建物の配置等は、別添図面（位置図、平面図、立面図、パース図）のとおり。
- 国の交付金採択上の必須機能は、飲食・物販スペース、子どもも大人もチャレンジできる場（例：チャレンジキッチン、商品試作、外部専門家等との協働・学びなど）、デジタルを使った交流・表現・活躍の場、快適な居場所となるスペース・空間など。
- ひまわりまつり以外でも、イベント、ワークショップ、起業に向けた学び・テストマーケティング、体験の場などとして、通年利用していく。

### 3 整備後の活用シーン（イメージ）

冬の土日は、雪のアクティビティを求めて、インバウンドがやってくる

雪原  
トンネルbar

北竜町に来ないと、食べられない、手に入らないものがある

ひまわり鹿  
ジビエ

クラフトマルシェが、定期的で開催されている

わくわく●▲  
マルシェ

農産加工品のビジネスプランコンテストが、開かれている

ひまわり  
イノベーション  
アワード

高校生たちが、コミュニティビジネスを回している

ひまわり  
ハイスクール  
カンパニー

大画面シアターが時々開催され夜遅くまで賑わっている

ひまわり  
シネマナイト

中学生が、外国の友達とオンラインで、ものづくりをしている

グローバル  
キッズラボ

やりたいことや  
才能を  
伸ばせる

その道のプロの、サポートが受けられる

キャリア  
デザイン  
レクチャーズ

### 4 収益化モデル検討プロジェクト

ノノの森を舞台に、唯一無二のビジネスプランをつくるプロジェクト

#### これまでの概要

町若手職員らが、プロのマーケッターのアドバイスを受けながら、AIを駆使し、ひとり10個以上のプランを出し合っ、アイデアの発散から、絞り込みを行おうとしている。

#### これからの方向性

8月頃までにプランを取りまとめ、テストマーケティングを実施、その後、課題整理・改善を行う。ノノの森の整備までに、継続的に試行を繰り返し、実装につなげていく。



冬のひまわりの里を活用した事業を豊田通商社員と町民らが企画

#### これまでの概要

冬のひまわりの里に、人を呼び込む事業をつくるために、豊田通商社員が来訪し、若手農家や経営者、地域おこし協力隊、町職員らと一緒に考え、企画提案を行った。

#### これからの方向性

「気球」「森のトレッキング」「フードマルシェ」「企業研修」の4案が提案された。初期投資が少ない「森のトレッキング」を、試験的に実施するために、プランを練り上げていく。



Creemaと連携し、ものづくりや地域資源の可能性を探っている

#### これまでの概要

公民館で開催した「クラフトマルシェ」には、多くの集客があり、東京ビックサイトのイベントでは、町内作家の作品の販売や、地域資源の活用に、可能性が見出された。

#### これからの方向性

町民の、ものづくり活動を促す（裾野・販路の拡大、スキルの向上、機会の提供等）とともに、地域資源（鹿皮・脂等）の高付加価値化・ブランド化に、取り組んでいく。

